

大型公共事業 あいにく宇都宮

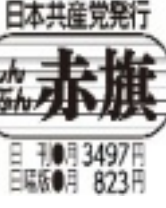
JR宇都宮駅東口 大開発へ再始動

JR宇都宮駅東口地区整備事業について、11月1日開かれた議員説明会において「民間事業者との意見交換会の結果、駅東口地区全体整備の見通しがついたことから、事業化に向けた環境が整った」との報告がありました。対象となるエリアは、左図の中の2万6千平方メートル。中央街区①・②・南街区となっております。コンベンション施設と商業・宿泊施設を一体的に整備するとしています。商業施設については、交通渋滞を招かない規模とすることとしています。コンベンション施設は、同時通訳ブースもある国際会議仕様、2千人規模としています。

事業スケジュール（予定）は、平成30年1月、整備方針の策定、事業者募集を開始（募集要項の公表）としています。総事業費は、公共施設部分で、おおよそ、

宇都宮民報

—発行—
日本共産党
宇都宮市委員会
弥生1丁目7-11
旭コーポ1階
Tel634-8722



宇都宮市資料より

150億円から80億円規模とされています。共産党の荒川つねお議員は「全国の県庁所在地の都市等では、1980年代から駅前開発が雨後の竹の子のように進められた。ランドマークビルを配し、少し高級なホテルやキー・テナントを中心とした商業施設、事業採算の助け舟に、コンベンション施設等の公共施設

**抜け出せない
バブル時代計画の
焼き直し!!**

これらの本質は、LRT事業計画と同様に、大企業、ゼネコン、デベロッパーの利益奉仕の大型公共事業優先以外のなにも指摘していません。



共産党市議員団の提案は ミヤ・セントラルパーク

私たちは、開発政策は人口減少時代のまちづくりへの発想の転換が必要と考えています。宇都宮市の東・西の玄関口だからといって、にぎわい等の都市機能を駅の東・西口を同じ顔にしなくともいいと考えます。駅西口から二荒山への都心軸をもっと強化・集中することがコンパクトシティにもつながります。そこで、日本共産党市議員団がかねてから提案しているのが「ミヤ・セントラルパーク」です。100年先の市民にも歓迎される「森と緑」を創出する開発です。東口の歩行通路を来ると、春は桜や桃やレンギョウなどが、秋には紅葉がいっぱいの通天橋にします。市民にも旅人も途中下車したくなる駅前都市公園構想です。

**大企業・ゼネコン・
デベロッパー奉仕の
駅東口開発計画は
リセット!!**

JR宇都宮駅東口の開発用地は、貴重な市民の財産です。市民を忘れた他都市のありきたりの開発の後追いをムリに進めるよりも、宇都宮市の新しい顔を創出することこそ、

都市ブランドを高めることになるのではないのでしょうか。現在と未来の宇都宮市民の利益となる駅前開発を市民参画ですめることが、今求められています。

宇都宮駅東口地区整備の 一かまどの経緯

- 89 (平元) 、東口地区新都市拠点整備事業総合整備計画の策定
- 95 (平7) ～ 99 (平11) 用地取得
- 96 (平8) 東口地区街並み・まちづくり総合計画策定
- 03 (平15) 駅周辺整備構想の策定・整備事業の提案競技実施——グループ七・七・八(清水建設が中心)を最優先交渉者に選定
- 05 (平17) 駅東口地区整備基本計画
- 05 (平17) ～ 08 (平20) 土地区画整理事業
- 09 (平21) グループ七・七・八事業化計画提出できず撤退
- 11 (平23) ～ 14 (平26) 開発用地時限貸出し 駅東口地区整備推進懇談会からの提言
- 13 (平25) 対話型市場調査の実施
- 15 (平27) ～ 17 (平29) 民間事業者との意見交換の実施
- 16 (平28) 事業者選定先送り

全員協議会の開催求め

自民党議員会商品券問題

議長に要望書提出(共産・統一・緑・社民)

「3人が書類送検へ」
新聞報道を受け

11月2日付けの下野新聞は、宇都宮市議が市職員に商品券を贈った問題で、近く県警が公選法違反(寄付行為の禁止)の疑いで、渡辺道仁現議長と元議長の熊本和夫市議、元副議長の桜井啓一市議3人を書類送検する方針を固めたと報道しました。日本共産党市議員団では、この問題について、6月13日他会派2名(緑・社民)とともに「倫理委員会」の審査請求を行い徹底究明を求めてきました。しかし議会は6月23日開催された全員協議会の場で、関係した12人の議員が謝罪をするということ、事実上の強引な幕引きがされたという経緯があります。

これまでの説明と
食い違い
徹底説明求める

新聞報道の内容は、これまで全員協議会で報告があった自民党議員会の会派内の調査結果の報告

内容とは、金額等食い違いがあります。

全員協議会開催を
要望(11月8日)

議会の信頼回復には、司法によるものとは、別に議会の中での自浄作用を発揮する必要があると見ます。まずは、すみやかに全員協議会を開催しこの問題の真相を明らかにせよと、11月8日議長に対し申し入れを行いました。申し入れは、共産党の荒川つねお議員、福田くみ子議員と、久保井永三議員(統一)、西房美議員(緑)、宇賀神文雄議員(社民)が、参加しました。



左から、宇賀神、久保井、福田、西、荒川各議員



核のごみ もういんねえべ!

さようなら原発! 栃木アクション2017

11月12日、雲一つない青空のもと、宇都宮城址公園には、原発いらない!、再稼働やめてなどのプラカードを掲げる市民約1,000人が集結しました。福島第一原発の事故から六年半が過ぎましたが、いまだに避難生活を余儀なくされている人は6万人もいると言われています。福島第一原発事故は終わってはいません。どの世論調査をとっても過半数の国民が、原発に反対しています。しかし、安倍自公政権は、こうした声に耳を傾けず、再稼働をすすめる原発依存の政策を走り続けています。

宇都宮城址公園に
千人



横断幕をもってパレードする(左から)野村せつ子県議、福田くみ子市議、天谷美恵子宇都宮市委員会副委員長

12時からのプレコンサートは、ギターの弾き語り、オカリナ演奏、センター合唱団の歌声などがすんだ青空に響き集会を盛り上げました。「未来を思う母の会」の中江綾さんは、子どもたちを自然の中で遊びたいと自保保育をしており、その中で県内各地の子どもたちの遊び場等、200カ所を超える場所で、放射線量を測定し、安心できる環境ではないことを実感。「放射能を気にするかしらないかを踏絵にしないでください。私たち大人

が起こしてしまったことに責任を取ろうとしているだけなのですから」と、訴えました。パレードは、宇都宮城址公園から市役所北口前を通り、宮の橋まで約2.2kmを、「原発やめよう」「子どもを守ろう」「フクシマを返せ、未来を返せ」などシュプレヒコールをしながらアピールしました。



リレートークで訴える中江綾さん(右端)

日本共産党宇都宮市議員団
定例無料

市政・法律なんでも相談会

雇用問題・多重債務・生活保護・年金・国保・住宅
道路・交通安全・その他なんでも...

午後2~4時

◇日時 12月9日(土)

◇会場 宇都宮市総合コミュニティセンター

◇連絡先 日中 TEL632-2622 (党市議員団控室)

土・日・夜間 TEL634-8722 (党市委員会)

相談ご希望の方はできる限り事前にご連絡をお願いします。

秘密厳守します。弁護士が協力します。

1月の相談会はお休みします。